

令和3年度 国立大学法人 愛知教育大学附属名古屋中学校

第64回教育研究発表会 社会科学習指導案

研究主題

「社会の一員として意思決定する
生徒を育成する社会科の授業」

第1時限（9:25～10:15 オンライン）

第2学年【地理】

「地域調査の手法・地域の在り方」

授業者 沼山季代典

<実践のねらい>

「集団の討論」において、「立場の討論」で議論したことを基に、概念的知識を踏まえて、どの切り口が追究課題の解決策として最もふさわしいかを議論させる。そうすることが概念的知識を踏まえて意思決定する力を育むことに有効か、ステップチャートや単元レポートの記述から検証する。

授業公開後、協議会・情報交換会を引き続き実施します。

第2学年B組 社会科学習指導案

令和3年10月7日(木) 第1時限 2B教室
指導者 沼山季代典

1 単元名 「地域調査の手法・地域の在り方」

2 単元について

本単元では、生徒たちが住む地域について扱い、地域調査の手法を身に付けさせるとともに、地域の課題を捉えさせ、追究課題を解決させることを通して、よりよい地域の在り方について探究させていきたい。本学級の生徒は名古屋市を中心に、春日井市やあま市、長久手市や東海市などの名古屋周辺部の市町に在住しており、生徒たちが在住している地域を扱うこととする。前単元の中部地方では、産業を主題にした追究学習に取り組んだ。その中で、名古屋市は主要8都市の中で魅力が最下位となっており、観光産業に課題があることを捉えている。また、地域調査の手法について身に付けさせていくために国土地理院のデジタル地形図や古地図、インターネットを活用していく。そして、名古屋周辺の地形や生活の様子について捉えさせていく中で、防災面や交通面、治安面での課題を捉えさせていく。その後、それらの課題を基に、追究課題を「よりよい地域にしていくために最も大切なことは何か。」と設定し、「観光業の促進」と「安全・防災対策の整備」を切り口として多面的に比較させ、さらに地域内の人々と地域外の人々の立場から多角的に考えさせていく。その際には、空間的相互依存作用に関わる視点として地域内外の結び付き、地域に関わる視点として地域の変容や持続可能性などの視点から考えさせていくようにする。その後、本単元の学習を俯瞰させ、「地域内の人々にとって暮らしやすく、地域外の人々にとって魅力を感じて結び付きが強まれば、よりよい地域となる。」という概念的知識を導き出させる。そして、追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定させることを本単元のねらいとする。このような学習を通して、社会の一員として意思決定する生徒を育成していきたい。

3 単元の目標

【知識・技能】

地域内の人々にとって暮らしやすく、地域外の人々にとって魅力を感じて結び付きが強まれば、よりよい地域となることを社会的事象と結び付けて理解する。

【思考・判断・表現】

追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定する。

【主体的に学習に取り組む態度】

これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとする。

4 単元構成と評価基準表(後掲資料)

5 本時の指導(10時間完了 本時8/10)

(1) 指導の意図

「立場の討論」では、これまでの学習内容を俯瞰させる発問をして、概念的知識を導き出させ、深い理解を伴った知識を習得させた(「RM①」)。そして、その概念的知識を踏まえて追究課題にふさわしい切り口を考えさせ、その切り口と理由をロイロノートの「テキスト」に入力させて、提出箱に提出させた。提出後は、自分の選んだ切り口以外の人の主張に対して、疑問点や反対意見を考えさせた。

本時の「集団の討論」では、学級全体で概念的知識を踏まえて意思決定させることをねらいとする。まず、前時に提出させた意見を基に、追究課題について概念的知識を踏まえて議論させる。議論をさせる中で、新たな根拠が必要になった際には、インターネットを活用させて調べさせ、ロイロノート上で資料を提示しながら主張させることで、根拠を明確にした主張ができるようにさせていく。そして、学級での議論を基に、概念的知識を踏まえて意思決定できるようにさせていく(収束的思考)。

(2) 目標

○ 追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定する。

【思考・判断・表現】

(3) 準備物

学習プリント、タブレット端末

(4) 指導過程

: 追究課題
 : 学習活動
 : 予想される生徒の反応
 ※ : 対応する指導上の留意点

時	主な学習活動	指導上の留意点
50分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 「よりよい地域にしていけるために最も大切なことは何か。」 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">※1～3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 「テキスト」の意見を基に議論する。 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">※4～8, 評1</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>切り口A「観光業の促進」を選んだ生徒の主張例</p> <p>・地域内の人々にとっては、観光業が促進されることで、イメージが改善され、観光客が増えることで、観光に関連した様々な職種の人たちの収入が増え、暮らしやすくなる。地域外の人々にとっては、イメージが改善することで、多くの人が観光に行くようになり、結び付きが強まる。</p> <p>切り口A「観光業の促進」の主張に対する反論例</p> <p>・なごやめしや名古屋城など今あるものをPRするだけでは、イメージは改善されていないし、新たな魅力を開発しようとする、多くの税金が必要になり、住民にとっては暮らしにくくなるのではないか。</p> <p>切り口A「観光業の促進」を選んだ生徒の再反論例</p> <p>・レゴランドのように、企業やテーマパークを誘致すれば、税金を使う必要はないので、住民に対して負担をかけずに観光業を促進できるし、観光客が魅力を感じることもつながる。</p> <p>切り口A「観光業の促進」を選んだ生徒の最終的な主張例</p> <p>・切り口Bは、名古屋周辺の地形の特質上、南西部の震災対策には限界があり、住民にとって現状以上に暮らしやすくすることは難しい。また、治安や交通などを整備しても魅力が少なければ訪れたいと思う人は少ないので、地域外との結び付きを強めることはできない。それに比べ、切り口Aは、企業やテーマパークを誘致するなどの方法で新たな魅力を開発すれば、住民に負担をかけることなく観光業が促進され、新たな雇用の創出や様々な職種の人たちの収入が増加することで、暮らしやすくなる。また、地域外の人々が自分たちの地域にはない魅力を感じれば、訪問志向が強まり、結び付きを強めることができる。</p> </div>	<p>※1 ロイロノートの提出箱に提出されている意見の中から、自分の選んだ切り口以外の切り口の主張に対しての疑問点や反対意見を事前に考えさせておく。</p> <p>※2 同じ切り口の生徒同士を近くの座席に配置する。</p> <p>※3 追究課題と本時のねらいである「概念的知識を踏まえて意思決定すること」を再確認し、ねらいを把握させる。</p> <p>※4 各切り口の主張に対しての疑問点や反対意見を出させ、疑問点は白色、反対意見は赤色で板書する。</p> <p>※5 出された疑問点や反対意見に対して同じ切り口の人と意見交換させた上で、疑問点の回答や反対意見への反論を出させ、黄色で板書する。</p> <p>※6 根拠がない発言や解釈が飛躍した発言、概念的知識が踏まえていない発言が出たときには、生徒たちに問い返して発言内容について検討させる。</p> <p>※7 新たな根拠が必要になった際には、インターネットを活用させて調べさせ、ロイロノート上で資料を提示させながら主張させる。</p> <p>※8 これまでの議論を踏まえ、最終的に追究課題にふさわしい切り口を考えさせ、選んだ切り口と選ばなかった切り口の差を明確にしながらか主張させる。</p> <p>評1 追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定することができたか。</p>

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
考えをもつ場【拡散的思考】	①	古代や江戸時代の古地図や地形図（デジタル地図）などを活用して、自分たちが住む地域の特色について捉える。	A ・地形図の読み取り方などの地理的スキルを身に付けているとともに、資料を基に、自分たちが住む地域の特色や課題を理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・自分たちの住む地域の特色や課題を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。	
	②	自分たちの住む地域の課題を捉え、追究課題を確認する。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】	B ・地形図の読み取り方などの地理的スキルを身に付けている、または、資料を基に、自分たちが住む地域の特色や課題を理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・自分たちの住む地域の特色や課題を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。	
		追究課題「よりよい地域にしていくために最も大切なことは何か。」 切り口A「観光業の促進」 切り口B「安全・防災対策の整備」	方法 ○発言の内容 (①) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容 (②) ○「ステップチャート」の記述内容	
考えを広げる場【拡散的思考】	③	「観光業の促進」が、地域内の人々と地域外の人々に及ぼす影響について捉える。	課題解決前の影響 (★)・課題解決後の影響 (☆)			
			地域内の人々の立場		地域外の人々の立場	
	④	「安全・防災対策の整備」が、地域内の人々の地域外の人々に及ぼす影響について捉える。	観光業の促進 ★地元の観光資源の魅力が認識していないため、他地域に広める推奨度が低い。 ★コロナ禍により、観光業全体の利益が減少。 ☆地域住民に魅力を再認識させ、観光業を促進させることで、食料品産業や飲食サービスなど観光業以外の産業も活性化される。 ☆名古屋のアクセスの良さを生かし、宿泊の拠点としてアピールしていくで宿泊業を促進させる。		★全国主要8都市の中で、最も魅力に欠ける都市となっており、観光に行きたいと思っていない。 ★中部国際空港があるため、外国からの観光アクセスがよく、外国人宿泊数は増加傾向にある。 ☆アクセスが良いので、魅力を認識できれば、観光したい人が増えやすい。 ☆名古屋周辺のよさを認識することで、自分のまちや他の町の良さを再認識するきっかけになる。	
	⑤	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	A ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、地域内の人々と地域外の人々の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。	
	⑥	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】	B ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。	
			方法 ○発言の内容 (③・④) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容 (⑤・⑥) ○「ステップチャート」の記述内容	
考えを創り上げる場【収束的思考】	⑦	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば、よりよい地域となるか」について考える。【RM①】	切り口A「観光業の促進」を選んだ生徒の主張例 ・地域内の人々にとっては、観光業が促進されることで、イメージが改善され、観光客が増えることで、観光に関連した様々な職種の人たちの収入が増え、暮らしやすくなる。地域外の人々にとっては、イメージが改善することで、多くの人が観光に行くようになり、結び付きが強まる。 切り口A「観光業の促進」の主張に対する反論例 ・なごやめしや名古屋城など今あるものをPRするだけでは、イメージは改善されていないし、新たな魅力を開発しようとする、多くの税金が必要になり、住民にとっては暮らしにくくなるのではないかと。 切り口A「観光業の促進」を選んだ生徒の再反論例 ・レゴランドのように、企業やテーマパークを誘致すれば、税金を使う必要はないので、住民に対して負担をかけずに観光業を促進できるし、観光客が魅力を感じることもつながる。 切り口A「観光業の促進」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・切り口Bは、名古屋周辺の地形の特質上、南西部の震災対策には限界があり、住民にとって現状以上に暮らしやすくなることは難しい。また、治安や交通などを整備しても魅力が少なければ訪れたいと思う人は少ないので、地域外との結び付きを強めることはできない。それに比べ、切り口Aは、企業やテーマパークを誘致するなどの方法で新たな魅力を開発すれば、住民に負担をかけることなく観光業が促進され、新たな雇用の創出や様々な職種の人たちの収入が増加することで、暮らしやすくなる。また、地域外の人々が自分たちの地域にはない魅力を感じれば、訪問志向が強まり、結び付きを強めることができる。			
		【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの政策が最もふさわしいかを学級全体で議論する。				
	⑧	概念的知識を他の地域に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】	A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。	
	⑨	単元テストを行う。	B ・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。	
⑩	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】	方法 ○発言の内容 (⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容 (⑦・⑧) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容		